総合評価結果報告書

施設の名称	静岡老人ホーム及び静岡市救護所		
課名	高齢者福祉課、福祉総務課		
指定管理者名	(福) 静岡市厚生事業協会		
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日		
評価委員会 開催年月日	令和7年6月6日(金)		
評価委員	① 委員長 杉田 文昭 (高齢者福祉課長) ② 委員 近江 一禎 (参与兼福祉総務課長) ③ 〃 平林 則彦 (参与兼介護保険課長) ④ 〃 石原 幸子 (介護相談員) ⑤ 〃 清野 文雄 (民生委員児童委員協議会会長)		
評価点 (各委員平均点)	86.8点	評価	A・ B ・C・D・E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏まえての施設所管課としての意見	<p>(両施設共通)</p> <p>入所人員数を指定管理者が管理することができないという制約があるなかで、サービスを低下させることなく、運営できている点は高く評価できる。</p> <p>地域にある他施設と連携が図られ、他施設とともに地域の行事への参加、施設の地域への開放等、地域交流も活発に行われている。</p> <p>措置施設なのでどうしても閉鎖的になりがちである。引き続き地域への情報発信を行い、活発な地域交流が今後も継続されることを期待する。</p> <p>入所生活に関するアンケートや聞き取り調査の結果を分析し、改善を重ねる取り組みがみられ、入所者のニーズを把握、サービスの質向上の姿勢が感じられる。</p> <p>入所者の声を聞き取り、日常生活に楽しみが持てるような創意工夫による取り組みが評価できる。</p> <p>(静岡老人ホーム)</p> <p>各区高齢介護課と隔月で情報交換会を実施し、連携を図ることで</p>		

	<p>措置の必要な高齢者を入所につなげている点が評価できる。</p> <p>入所者同士、職員との関係性を重視した考えから開催される全員集会も関係を適切に保つ取り組みとして評価できる。</p> <p>(静岡救護所)</p> <p>各区福祉事務所と連携を密にし入所につなげるよう努めている。</p>
--	---

総合評価結果総括表

施設の名 称 [静岡老人ホーム及び静岡市救護所] 課名 [高齢者福祉課及び福祉総務課]

指定管理者名 [(福) 静岡市厚生事業協会]

	A 評価 委員	B 評価 委員	C 評価 委員	D 評価 委員	E 評価 委員	平均 点
1 履行状況の確認 【配点50点】						
(ア) 事業の円滑な実施 (15点)	13	12	15	15	15	14
(イ) 適正な人員配置 (10点)	9	8	8	10	8	8.6
(ウ) 安心・安全を最優先した施設の維持管理 (15点)	13	12	12	15	15	13.4
(エ) 庶務事務 (10点)	8	8	8	10	10	8.8
小 計	43	40	43	50	48	44.8
2 指定管理者の創意工夫 【配点15点】						
(ア) 指定管理者による事業の提案と実施 (15点)	12	12	15	10	15	12.8
小 計	12	12	15	10	15	12.8
3 市民（利用者）のサービスの向上 【配点15点】						
(ア) 利用者の満足度調査が実施されている。 (5点)	4	3	5	4	4	4.0
(イ) 利用者満足の上昇に努めている。(5点)	4	4	5	4	4	4.2
(ウ) 利用者等からの要望、苦情への対応がされて いる。(5点)	4	3	5	4	4	4.0
小 計	12	10	15	12	12	12.2
4 施設固有の評価項目 【配点20点】						
(ア) 措置施設として、福祉事務所との連携が確立 している。(10点)	9	8	8	8	10	8.6
(イ) 居住施設として、入所者との関係を適切に保 っている。(10点)	8	8	8	8	10	8.4
小 計	17	16	16	16	20	17
合 計	84	78	89	88	95	86.8

※ 平均点は小数点以下第2位を四捨五入する。

各評価委員の所見のまとめ（※各評価委員の所見をそのまま記載してください。）

【A評価委員】

仕様書・法令を遵守し施設運営が行われている。

静岡老人ホームは措置施設ということで入所される方には集団生活の困難な方や処遇の困難な方がいる中、適切に運営ができていることは高く評価できる。変化の少ない生活であるため入所者の声を丁寧に聞き取り、サービスの質の向上に努めていってほしい。

地域と連携を行ったり、施設と地域に開放したりなどして地域の一員としてのつながりを意識し施設を運営していることは良い取り組みです。

入所者が潤いある生活が送れるよう利用者の声を受け止めて可能な限り施設運営に生かしてほしい。

【B評価委員】

地域交流や利用者の満足度向上に様々な対応をしている。

施設入所している高齢者にとって“楽しい”という感情は大切であり、今後も工夫した催しを期待する。

【C評価委員】

施設管理は適切に行われている。

地域との交流を積極的に行っている。

詳細なアンケートを実施し、利用者への適切な対応につなげている。

利用者への支援・相談への対応が丁寧に行われている。

市との連携も適切に行われている。

【D評価委員】

計画的な運営がされている。

利用者へのサービス向上の取り組みがなされている。

措置施設なのでどうしても閉鎖的になるので、地域への情報発信をさらに行うことを期待する。

【E評価委員】

長期計画に基づいて維持管理できている。

毎日の生活に工夫がされている。

全員集会などで利用者の気持ちに対して対応を考えられている。

ケアの基本、危機管理など細かく規定されており、有事には慌てることなく規定通り行動できれば、全く問題なし。

全てにおいて2施設一体は大変なこと。

基本理念に沿って自ら手本となり利用者の生活の手助けをお願いしたい。

評価委員会としての意見

（両施設共通）

入所人員数を指定管理者が管理することができないという制約があるなかで、サービスを低下させることなく、運営できている点は高く評価できる。

地域にある他施設と連携が図られ、他施設とともに地域の行事への参加、施設の地域への開放等、地域交流も活発に行われている。

措置施設なのでどうしても閉鎖的になりがちである。引き続き地域への情報発信を行

い、活発な地域交流が今後も継続されることを期待する。

入所生活に関するアンケートや聞き取り調査の結果を分析し、改善を重ねる取り組みがみられ、入所者のニーズを把握、サービスの質向上の姿勢が感じられる。

入所者の声を聞き取り、日常生活に楽しみが持てるような創意工夫による取り組みが評価できる。

(静岡老人ホーム)

各区高齢介護課と隔月で情報交換会を実施し、連携を図ることで措置の必要な高齢者を入所につなげている点が評価できる。

入所者同士、職員との関係性を重視した考えから開催される全員集会も関係を適切に保つ取り組みとして評価できる。

(静岡救護所)

各区福祉事務所と連携を密にし入所につなげるよう努めている。